

EnSight 補足資料

立体視の設定

サイバネットシステム株式会社

つくる情熱を、支える情熱。

CYBERNET

1.立体視の概要

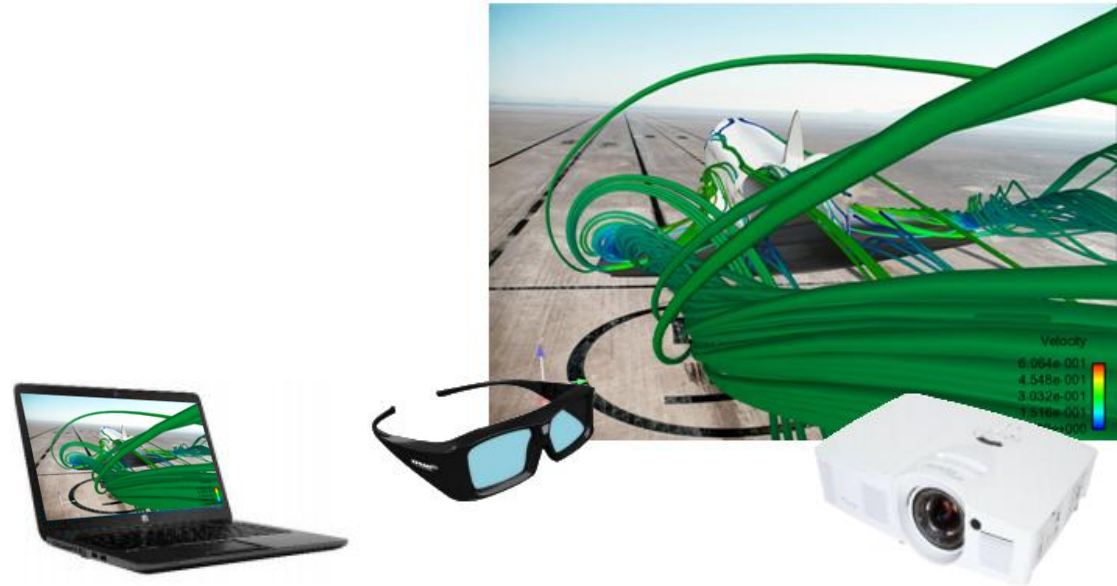
2.立体視のON/OFF

3.視差の調整

4.設定の保存

5.Tips

EnSightは、アクティブステレオ表示(時分割方式)をサポートします。以降のページでは、その設定方法について説明します。



本機能を利用するには、以下のハードウェアが必須です。

- ・時分割方式に対応できる表示装置
- ・液晶シャッターメガネ
- ・OpenGLの Quad Buffering をサポートするグラフィックスボード



Portable VR:

<http://www.cybernet.co.jp/ar-vr/documents/download/portablevr0226.pdf>

※画像の背景は“Edwards AFB Runway 5 on Rogers Dry Lake.jpg”(from Wikipedia Public domain)

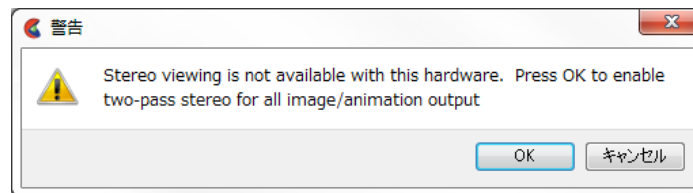
- 1.立体視の概要
- 2.立体視のON/OFF
- 3.視差の調整
- 4.設定の保存
- 5.Tips

F12 キーを押すと、立体視表示に切り替わります。もう一度押すと、立体視表示は解除され、通常の表示に切り替わります。

※ フルスクリーン表示の切り替え: **F9**

グラフィックスボードが時分割方式に対応していない場合、もしくはQuadBuffering の設定がONになっていない場合、以下の様な警告ダイアログが表示されます。

グラフィックスボードの設定等に関しては「5.Tips」を御覧ください。



- 1.立体視の概要
- 2.立体視のON/OFF
- 3.視差の調整
- 4.設定の保存
- 5.Tips

■映像を見ながらインタラクティブに設定

視差を調整する場合、立体視をONにしてから、映像を見ながら以下のキーを利用します。

視差の減少 : F10

// 増加 : F11

※左右映像のスワップ : Ctrl + F12

■コマンドで視差値を設定

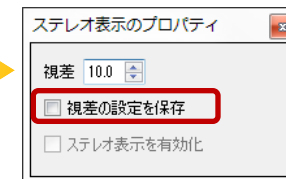
以下のPythonコマンドを実行します。

```
ensight.objs.core.STEREO_SEPARATION = 5.0
```

- 1.立体視の概要
- 2.立体視のON/OFF
- 3.視差の調整
- 4.設定の保存
- 5.Tips



ツールアイコンを押下して、[ユーザー定義ツール] ダイアログの [ユーティリティ] > [ステレオ表示のプロパティ] をダブルクリックします。



[視差の設定を保存] トグルにチェックを入れて保存は完了です。

- 1.立体視の概要
- 2.立体視のON/OFF
- 3.視差の調整
- 4.設定の保存
- 5.Tips

■ OpenGLの時分割方式に対応しているグラフィックスボードは？

ワークステーション向けのハイエンド版が推奨されます。AMD FirePro、およびNvidia Quadro シリーズより上位の製品が該当します。

■ グラフィックスボードは時分割方式対応だが、警告が表示される

立体視を行うには、グラフィックスボードのドライバー設定でQuad Buffer Stereo を有効にする必要があります。

Linux :

/etc/X11/xorg.conf等の設定ファイルを編集する必要があります。

Windows :

グラフィックスドライバーの設定パネルから設定可能です。ステレオ設定を有効にしてください。

■ 表示が画面より奥に見える

物体を手前側に引き出す必要があります。そのまま手前に移動すると大きくなる場合は、最初に物体のサイズを縮小してから、手前に移動させます。

■ その他にも判らないことがある

EnSightサポート窓口までお問い合わせ下さい。

ensight-support@cybernet.co.jp

ご利用上の注意：

本書中の解説、及び、図、表は文書による許可なしに、その全体または一部を無断で使用、複製することはできません。

このドキュメントに記載されている事柄は、将来予告無しに変更される事があります。なお、サイバネットでは記載内容に関して正確であることに努めていますが、本書の利用に関して生じた損害については法律上のいかなる責任も負いません。

EnSight は米国 CEI 社の商標です。
上記以外の製品名も一般に開発各社の商標、あるいは登録商標です。

サイバネットシステム株式会社